

令和元年度北海道高等学校長協会調査研究委員会報告（中間報告 1 R2. 4）
学習指導に関する調査研究
～新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導と学習評価についての調査研究～

1 学習指導要領改訂の基本的方針

(1) 育成を目指す資質・能力の明確化

三つの柱で再構成

ア「何を理解しているか、何ができるか」

（生きて働く「知識・技能」の習得）

イ「理解していること・できることをどう使うか」

（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）

ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

- ① 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、生徒に目指す資質・能力を育むためのものであること。
- ② 各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること。
- ③ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、生徒が考える場面と教師が教える場面とをどのように組み立てるかを考え、実現を図っていくものであること。
- ④ 深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。
- ⑤ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。

(3) 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のために教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うこと。

○ 三つの側面からの捉え

① 教育内容の組織的配列

各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

② P D C Aサイクルの効果的な運用（編成・実施・評価・改善）

教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のP D C Aサイクルを確立すること。

③ 様々なリソースの組み合わせ

教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

2 家庭科改訂の要点

(1) 家庭科、技術・家庭科家庭分野における目標(小・中・高)

実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成する。

- ① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
 - ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を通して生活の課題を解決する力を養う。
 - ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。
- ※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

(2) 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における資質・能力と目標との関連を明示

育成を目指す3つの資質・能力	
知識・技能	生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的・科学的な知識を獲得・理解し、技能を習得する。
思考力・判断力・表現力等	生活の中から問題を見出して課題を解決し、そのプロセスや結果を表現する。
学びに向かう力・人間性	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活や社会の実現に向けて工夫し、改善する。

(3) 家庭科、技術・家庭科における「見方・考え方」・領域横断的に貫く四つの視点の明示

家庭科、技術・家庭科家庭分野では、人の生活の営みに係る多様な生活事象を学習対象としている。生涯にわたって自立し共に生きる生活を創造するために、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」を「生活の営みに係る見方・考え方」として整理することができる。

学習を貫く四つの視点と内容等との関連による重点の置き方の違い			
	家族・家庭生活	衣食住の生活	消費生活・環境等
協力・協働	◎	○	○
健康・快適・安全	○	◎	○
生活文化の継承・創造	○	◎	○
持続可能な社会の構築	○	○	◎

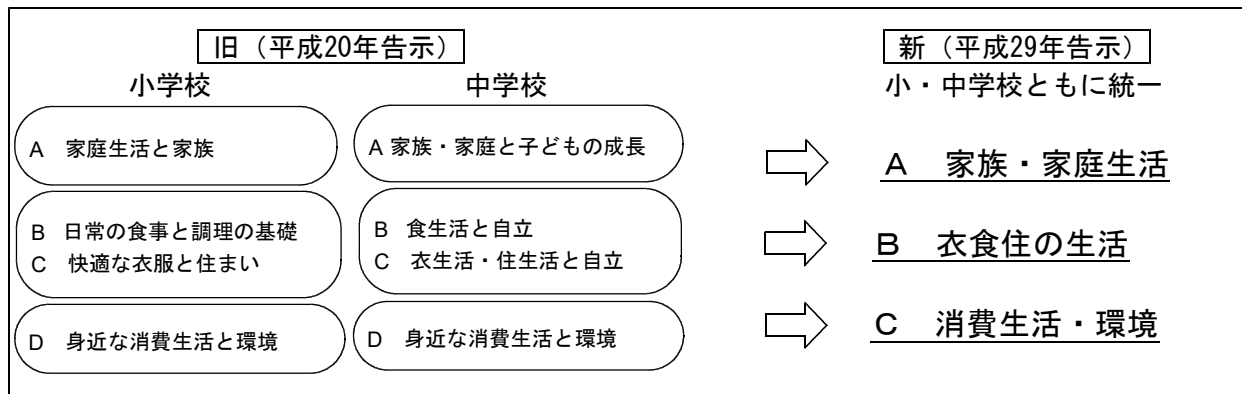
(4) 小・中・高等学校の教育内容の見直し

社会を担う子供たちには、グローバル化、少子高齢化、持続可能な社会の構築等の現代的な諸課題を適切に解決する力が求められることから、家庭科、技術・家庭科においては、学校種ごとの見直しが図られた。

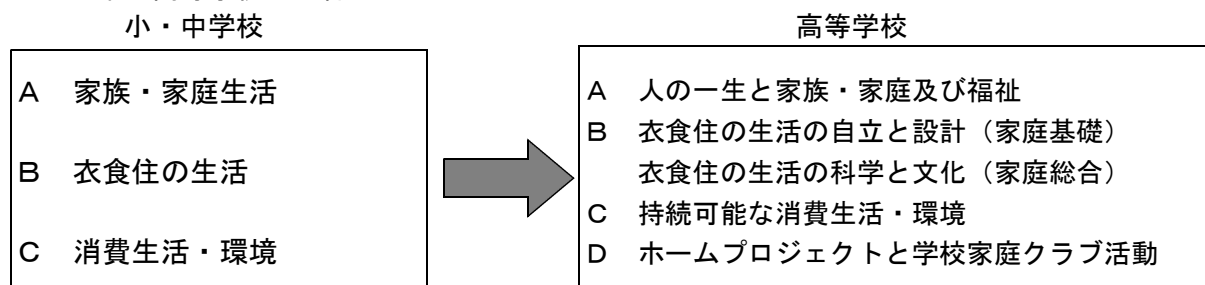
(5) 小・中・高等学校の系統性の明確化

ア 小・中学校の内容構成の新旧比較

小学校・中学校ともに、三つの内容とし系統性の明確化を図る。



イ 小・中・高等学校の内容について



ウ 小・中・高等学校の系統性を重視した指導の充実

高等学校 人間の発達と生涯を見通した生活の営みを総合的に捉える

→生活に関わる事象を科学的に理解する。

家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、充実向上を図る。

時間軸 小学校→自分の成長を自覚する
中学校→生活の自立を考えこれからの生活を展望する
高等学校→生涯を見通す

空間軸 自己と家庭、家庭と社会のつながりを考える
小→中→高で広がる

食生活	小→ 一食分の食事 中→ 一日分の食事 高→ 各ライフステージの食事
保育	中→ 子どもが育つことを学ぶ 高→ 子どもを育てることを学ぶ

エ 小学校・中学校における「A 家族・家庭生活」の内容構成

小学校	中学校
(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と自覚 家庭生活と家族の大切さ、 家族との協力 (2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と生活時間 イ 家庭の仕事の計画と工夫 (3) 家庭や地域の人々との関わり ア(ア) 家族との触れ合いや団らん	(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家庭生活のとの関わり 家族・家庭の基本的な機能、 家族や地域の人々との協力・協働 (2) 幼児の生活と家族 ア(ア) 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 (イ) 幼児の遊びの意義、幼児の関わり、 イ 幼児との関わりの工夫 (3) 家族・家庭や地域との関わり ア(ア) 家族の協力と家族関係

(イ) 地域の人々との関わり イ 家族や地域の人々との関わり方の工夫 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活のについての課題と計画、実践、評価	(イ) 家庭生活と地域との関わり、高齢者との関わり方 イ 家庭生活をよりよくする方法及び地域の人々と協働する方法の工夫 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族、幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価
--	---

オ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」食生活の内容構成

小学校	中学校
(1) 食事の役割 ア 食事の役割と食事の大切さ、日常の食事の仕方 イ 楽しく食べるための食事の仕方の工夫 (2) 調理の基礎 ア (ア) 材料の分量や手順、調理計画 (イ) 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、加熱用調理器具の安全な取扱い (ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け (エ) 材料に適したゆで方、いため方 (オ) 伝統的な日常食の米飯及びみそ汁の調理の仕方 イ おいしく食べるための調理計画及び調理の工夫 (3) 栄養を考えた食事 ア (ア) 身体に必要な栄養素の種類と働き (イ) 食品の栄養的な特徴と組合せ (ウ) 献立を構成する要素、献立作成の方法 イ 1食分の献立の工夫	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア (ア) 食事が果たす役割 (イ) 中学生の栄養の特徴、健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣の工夫 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア (ア) 栄養素の種類と働き、食品の栄養的特質 (イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量 献立作成の方法 イ 中学生の1日分の献立の工夫 (3) 日常食の調理と地域の食生活 ア (ア) 用途に応じた食品の選択 (イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 (ウ) 材料に適した加熱調理の仕方、基礎的な日常食の調理 (エ) 地域の食文化、地域の食材を用いた和食の調理 イ 日常の1食分のための食品の選択と調理計画及び調理の工夫 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活についての課題と計画、実践、評価

カ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」衣生活の内容構成

小学校	中学校
(4) 衣服の着用と手入れ ア (ア) 衣服の主な働き、日常着の快適な着方 (イ) 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア (ア) 製作に必要な材料や手順、製作計画 (イ) 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫	(4) 衣服の選択と手入れ ア (ア) 衣服と社会生活との関わり、目的に応じた着用や個性を生かす着用、衣服の選択 (イ) 衣服の計画的な活用、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 日常着の選択や手入れの工夫 (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作する物に適した材料や縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための資源や環境に配慮した布を用いた製作計画及び製作の工夫 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 衣生活についての課題と計画、実践、評価

キ 小学校・中学校における「B 衣食住の生活」住生活の内容構成

小学校	中学校
(6) 快適な住まい方の工夫 ア (ア) 住まいの主な働き、 季節の変化に合わせた生活の大切さや 住まい方 (イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、 整理・整頓や清掃の仕方の工夫	(6) 住居の機能と安全な住まい方 ア (ア) 家族の生活と住空間との関わり、 住居の基本的な機能 (イ) 家族の安全を考えた住空間の整え方 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方の工夫 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 住生活についての課題と計画、実践、評価

ク 小学校・中学校における「C 消費生活・環境」の内容構成

小学校	中学校
(1) 物や金銭の使い方と買物 ア (ア) 買物の仕組みや消費者の役割、 物や金銭の大切さ、計画的な使い方 (イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理 イ 身近な物の選び方、買い方の工夫 (2) 環境に配慮した生活 ア 身近な環境との関わり、物の使い方 イ 環境に配慮した物の使い方の工夫	(1) 金銭の管理と購入 ア (ア) 購入方法や支払い方法の特徴、 計画的な金銭管理 (イ) 売買契約の仕組み、消費者被害、 物資サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ 情報を活用した物資・サービスの購入の工夫 (2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任 消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 自立した消費者としての消費行動の工夫 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活についての課題と計画、実践、評価 新設

ケ 小学校・中学校における課題解決学習「生活の課題と実践」について

小学校	中学校
A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 日常生活についての課題と計画、実践、評価 新設	A 家族・家庭生活 (4) 家族・家庭生活についての課題と実践 ア 家族・幼児の生活又は地域の生活についての課題と計画、実践、評価 B 衣食住の生活 (7) 衣食住の生活についての課題と実践 ア 食生活、衣生活、住生活についての課題と計画、実践、評価 C 消費生活・環境 (3) 消費生活・環境についての課題と実践 ア 環境に配慮した消費生活に付いての課題と計画、実践、評価 新設

4 高等学校家庭科（共通教科）改訂のポイント

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「家庭基礎」、「家庭総合」とともに、内容構成をA「家庭・家族及び福祉」、B「衣食住」、C「消費生活・環境」に、D「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた四つに整理
- 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進等に対応し、生涯を見通した生活設計、乳幼児や高齢者をはじめ地域社会の人々との関わり、衣食住に関わる生活文化の伝承・創造、契約の重要性や消費者保護に関する内容を充実
- 家庭や地域及び社会における生活課題を解決する力、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画し、家庭や地域の生活を主体的に創造しようと実践的な態度を育成する指導を充実

(1) 改訂の基本的な考え方

- 実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指すとともに、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られるよう、目標及び内容を改善・充実

現 行	改 訂
家庭基礎（2単位）、家庭総合（4単位）、及び生活デザイン（4単位）のうち1科目を必修	家庭基礎（2単位）、家庭総合（4単位）のうち1科目を必修

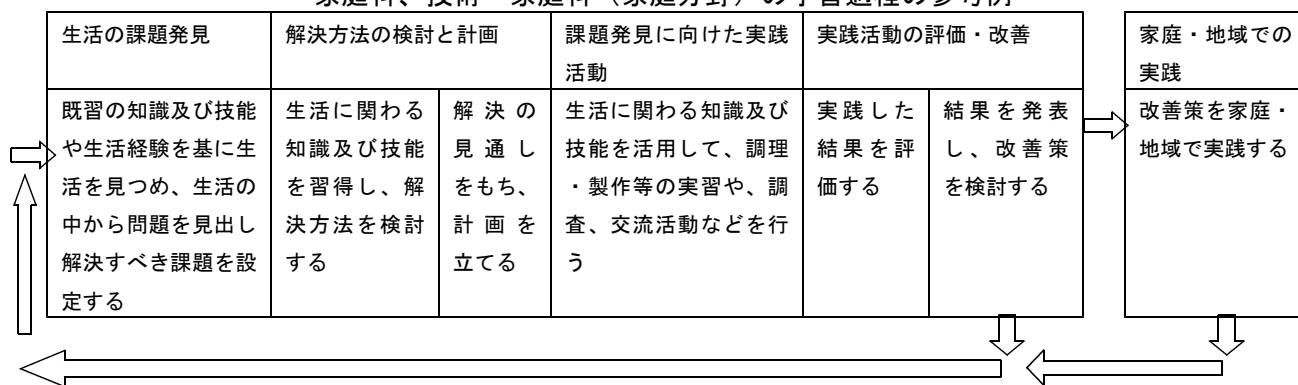
(2) 学習内容の改善・充実

- ① 「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」
 - ・生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫について明記。
 - ・「家庭基礎」に、家族・家庭に関する法規について触れることを明記。
 - ・子育て支援についての理解や乳幼児と関わるための技能について明記。
 - ・高齢者の尊厳と介護についての理解（認知症含む）や生活支援に関する技能について充実。
 - ・自助、共助及び公助の重要性について理解することを明記
- ② 「B 衣食住の生活の自立と設計（家庭基礎）」「B 衣食住の生活の科学と文化（家庭総合）」
 - ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実。
 - ・防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境の工夫について明記。
- ③ 「C 持続可能な消費生活・環境」
 - ・「家庭基礎」に家庭管理について理解することを明記。
 - ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実。
 - ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解することを明記。
- ④ 「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」
 - ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動については、引き続き充実。

(3) 学習指導の改善・充実

- ① 科目の導入として「生涯の生活設計」の項目を新設し、AからCまでの内容と関連付けるとともに、まとめとして指導することを明記。
- ② 現在を起点に将来を見通したり、自己や家庭を起点に地域や社会へ視野を広げたりすることができるよう指導することを明記。時間軸・空間軸の二つの視点
- ③ 学習過程を踏まえた改善 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して解決策を構想し実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ることを明記。

家庭科、技術・家庭科（家庭分野）の学習過程の参考例



5 高等学校 共通教科「家庭」について

(1) 家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

(2) 育成を目指す資質・能力

- ① **「知識・技能」** 自立した生活者に必要な家族、家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解と技能

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

- 家族・家庭についての理解
- 乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等についての理解と技能
- 生涯の生活設計についての理解
- 各ライフステージに対応した衣食住についての理解と技能
- 生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立についての理解と技能

- ② **「思考力・判断力・表現力等」** 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して解決する力

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

- 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を解決する力
- 実習や観察・実験、調査、交流活動等の結果等について、考察したことを科学的根拠や理由を明確にして論理的に表現する力
- 他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力

③ 「学びに向かう力・人間性等」 相互に支え合う社会の構築に向けて、主体的に地域社会に参画し、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

- 男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度
- 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画しようとする態度
- 生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度
- 日本の生活文化を継承・創造しようとする態度
- 自己のライフスタイルの実現に向けて将来の家庭生活や職業生活を見通して学習に取り組もうとする態度

(3) 「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築等」の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

(4) 共通教科「家庭基礎」、「家庭総合」の内容

「家庭基礎」(2単位)	「家庭総合」(4単位)
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 - 生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 (2) 青年期の自立と家族・家庭 - 家族・家庭の法規に関する法規に触れることを明記 (3) 子供の生活と保育 - 子育て支援についての理解 - 乳幼児と関わるための基礎的な技能 (4) 高齢期の生活と福祉 - 高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) - 高齢者の生活支援に関する基礎的な技能についての内容の充実 (5) 共生社会と福祉 - 自助・共助及び公助の重要性についての理解 B 衣食住の生活の自立と設計 - 和食、和服及び和室など日本の伝統的な生活文化の継承・創造についての理解 (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境 - 防災などの安全や環境に配慮した住生活の工夫	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 - 生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 - 子供の遊びと文化についての理解 - 子育て支援についての理解と工夫 - 子供の発達に応じた適切な関わり方の工夫 (4) 高齢者との関わりと福祉 - 高齢者の尊厳と介護についての理解(認知症含む) - 高齢者の心身の状況に応じた生活支援に関する技能についての内容の充実 (5) 共生社会と福祉 - 自助・共助及び公助の重要性についての理解 B 衣食住の生活の科学と文化 - 日本と世界の衣食住の文化についての理解 - 和食、和服及び和室など日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実 (1) 食生活の科学と文化 (2) 衣生活の科学と文化 (3) 住生活の科学と文化 - 防災などの安全や環境に配慮した住生活と町づ

	くりの考察、工夫
C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 ・家計管理についての理解 ・リスクを想定し不慮に事態に備えた対応についての理解 (2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 ・不測の事態に備えたリスク管理に関する内容の充実 (2) 消費行動と意思決定 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性についての理解 ・消費者保護の仕組みについての理解 (3) 持続可能なライフスタイルと環境
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

(5) 共通教科「家庭基礎」、「家庭総合」の新旧対照表

ア 「家庭基礎」の新旧対照表

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の自立と設計」「C 持続可能な消費生活・環境」「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の四つに整理
- 生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフスタイルに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着や、生涯にわたってこれらの力を活用した課題解決を目指し、改善を図った。

家庭基礎 (2単位)	
新	現行
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉 (5) 共生社会と福祉	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青年期の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉
B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境	(2) 生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康 イ 被服管理と着装 ウ 住居と住生活 エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 オ ライフスタイルと環境 カ 生涯の生活設計
C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

イ 「家庭総合」の新旧対照表

- 小・中・高等学校の系統性を踏まえ、「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住の生活の科学と文化」「C 持続可能な消費生活・環境」「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の四つに整理
- 生涯の生活設計の学習を科目の導入としても学習することで、現在を起点に将来を見通し、ライフスタイルに応じた衣食住の生活に関わる理解や技能の定着はもとより、生活文化の継承・創造の観点から内容を充実するとともに、従前の「生活デザイン」の趣旨を継承し、生活の価値や質を高めつつ、豊かな生活を楽しむことができる実践力を育成することを重視して、改善を図った。

家庭総合 (4単位)	
新	現行
A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1) 生涯の生活設計 (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 (3) 子供との関わりと保育・福祉 (4) 高齢者との関わりと福祉 (5) 共生社会と福祉	(1) 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と青年期の自立 イ 家族・家庭と社会 (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉 ア 子どもの発達と保育・福祉 イ 高齢者の生活と福祉 ウ 共生社会における家庭や地域
B 衣食住の生活の科学と文化 (1) 食生活の科学と文化 (2) 衣生活の科学と文化 (3) 住生活の科学と文化	(3) 生活における経済の計画と消費 ア 生活における経済の計画 イ 消費行動と意思決定 ウ 消費者の権利と責任 (4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化
C 持続可能な消費生活・環境 (1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境	エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立 (5) 生涯の生活設計 ア 生活資源とその活用 イ ライフスタイルと生活設計
D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

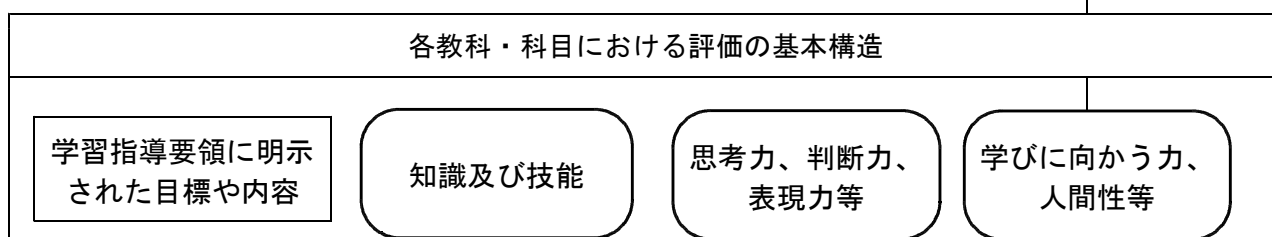
1 学習評価について

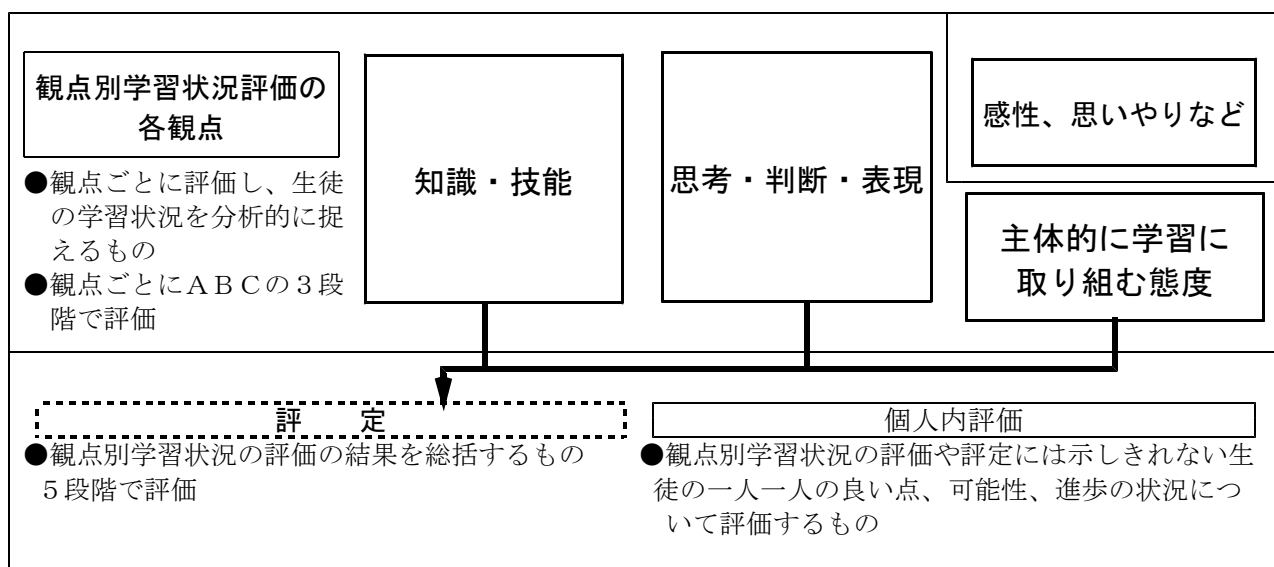
(1) 学習評価の基本構造

平成30年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

「学びに向かう力、人間性等」には

- ①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる点と、
- ②観点別評価や評定がなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。





(2) 家庭科の評価の観点及び趣旨
ア 共通教科「家庭」

観 点	趣 旨
知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

イ 専門教科「家庭」

観 点	趣 旨
知識・技術	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

7 「家庭基礎」年間指導計画例

<目 標>

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

<評価の観点> (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。

<育成を目指す資質・能力> (例)

観点		資質・能力	資質・能力の説明
知識・技能	1	基礎的読解力	文章や図表を読み、その意味を適切に理解・解釈・分析した後、改めて記述・表現する力
	2	実践力	理念・理論や技能・スキルを使って、実際の生活や社会で行っていく力
思考・判断・表現	3	論理的思考力	道理や筋道に則って思考を巡らせて結論を導いたり、あるいは、複雑な事柄を分かりやすく説明したりできる能力
	4	批判的思考力	従来の考え方や前提にとらわれず「なぜそうなのか」「本当にそうなのか」を問いかけることで、常識や固定観念に影響されない「真の解」を見つけるため考え抜く力
	5	表現力	文章を書く力や話す力、コミュニケーション能力など、言語を使って表現する力と、制作することにより成果として表す力
	6	課題発見力	よりよい生活や社会の創造を目指し、現状を分析し、課題を明らかにする力
	7	課題解決力	よりよい生活や社会の創造や実現に向け、自らの課題を設定して、解決に取り組む能力
主体的に学びに向かう態度	8	主体的行動力	どんな状況においても「自分の意志」や「判断」で決断し責任を持って行動する態度や力
	9	意思決定能力	自己の意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組む態度や力
	10	協働力	自分の意見を的確に伝えつつ、意見や立場の異なる多様な他者も尊重した上で、目標を共有し、ともに力を合わせて活動する態度や力

月	単元(項目)	学習項目	学習のねらい	時 数	育成を目指す資質・能力									
					知識・技能		思考・判断・表現					主体的態度		
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	4	オリエンテーション	・「家庭基礎」の目標、内容を理解する。	1	○		○	○		○		○		○
		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・意義と実施方法について理解する。											
	A 人の一生と家族・家庭及び福祉	(1) 生涯の生活設計 ア 生涯発達と様々な生き方、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解 イ 自己実現への考察と生活設計の工夫	・人の一生について生涯発達の視点で捉え、様々な生き方を理解するとともに、自分の目指すライフスタイルを実現するために、生涯を見通した生活を設定することができるようにする。	3	○	○			○	◎	○	○	◎	○
		(2) 青年期の自立と家族・家庭 ア 青年期の課題と自立、男女平等と相互協力、家族・家庭の機能と家族関係、社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについての理解 イ 生活の創造に向けた意思決定、家族の一員としての役割、家庭を築くことの重要性についての考察	・生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、男女が協力して家庭を築くことの意義や家族・家庭の機能や特徴等について理解を深め、様々な生活課題への意思決定、責任ある行動が重要であることが認識できるようにする。	3	○		○	○		◎		○	◎	◎
		(3) 子供の生活と保育 ア 子供の発達と生活、子育て支援等についての理解と子供と関わる技能の習得 イ 子供を生み育てることの意義、子供の育つ環境や社会の役割についての考察	・乳幼児の発達と生活、子供が育つ環境、子育て支援、乳幼児との関わり方等の基礎的な知識・技能を身に付け、子供を生み育てることの意義、親や家庭及び地域社会の果たす役割の重要性について考察することができる。	7	○	◎	○	○	○			○		○
		(4) 高齢期の生活と福祉 ア 高齢期の特徴と生活、自立生活支援や介護についての理解、生活支援に関する基礎的技能的習得 イ 高齢者の自立生活のための家族や社会の役割の重要性についての考察	・高齢者の心身の特徴、社会環境、自立生活の支援や介護について理解し生活支援に関する基礎的な技能を身に付け、高齢者支援に向けた家族や地域及び社会の果たす役割について考察できるようにする。	7	○	◎	○	○				○		○
6		(5) 共生社会と福祉 ア 家族・家庭と社会的支援についての理解 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚と支え合うことの重要性についての考察	・生活課題を主体的に解決し、よりよい生活を創造するために必要な福祉や社会的支援について理解を深めるとともに、主体的に行動する意思決定能力を身に付け、課題を考察することができるようにする。	2	○					○	○	◎	◎	◎
		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトの立案をする(夏期休業中に各自が実施・まとめ)	2			○	○	○	◎	○		○	
	8	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・成果を発表し、次の課題につなげる。	2			○		◎		○	○		
9	C 持続可能な消費生活・環境	(1) 生活における経済の計画 ア 家計と経済との関わり、家計管理についての理解 イ 生涯の経済計画とリスク管理、社会保障制度についての考察	・家計管理の重要性や家計と経済について理解するとともに、収支のバランスやリスクに備えた経済計画について考察できるようにする。	3	○		◎	◎	○	○		○	◎	
		(2) 消費行動と意思決定	・近年の消費者問題や消費者の権利と責											

10		ア 消費生活の現状と消費者の権利と責任についての理解 イ 自立した消費者としての意思決定、責任ある消費についての考察	任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。	5	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎
		(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 持続可能な消費、持続可能な社会への参画の意義についての理解 イ 持続可能な社会を目指した主体的行動、安全・安心な消費についての考察、ライフスタイルを工夫	・ 日常の生活が地球環境問題等と密接に関わっていることや、持続可能な社会を目指した消費の在り方について理解し、自らの消費行動によって環境負荷を低減させ、地球環境保全に貢献できるライフスタイルを工夫することができるようにする。	4	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
11	B 衣食住の生活の自立と設計	(1) 食生活と健康 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 栄養と食事、食品の特質、健康や環境に配慮した食生活についての理解と食生活の計画・管理の技能 (イ) 調理上の性質、食品衛生の理解と目的に応じた調理の技能 イ 適切な献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活についての考察や食事の工夫	・ 栄養と食事、食品と調理など食生活に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、生涯を通して健康で安全な食生活を営むことができるようにする。	18	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
12		D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ グループで夏休みのHP紹介と共有をし考察する。それを踏まえグループで協働して生活課題を見だし、改善策を探る。	2			○	◎	◎	◎		○		◎
1	B 衣食住の生活の自立と設計	(2) 衣生活と健康 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 被服の機能と着装の理解と必要な情報の収集・整理 (イ) 被服の計画・管理についての技能 イ 被服の機能性・快適性の考察、安全で健康や環境に配慮した被服管理や着装の工夫	・ 被服の機能と着装及び安全、環境に配慮した被服計画・管理に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、健康で快適な衣生活を主体的に営むことができるようにする。	4	○	○		○		○		○	○	
		(3) 住生活と住環境 ア 安全で快適かつ健康的な住生活についての理解と、適切な住居の計画・管理についての技能の習得 イ 地域との関わりについての考察と、安全や環境に配慮した住生活・住環境の工夫	・ 住居の機能などの基礎的・基本的な知識と技能を身に付け、防災などの安全や環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。	7	○	○		○		○	○	○		○
2														
3														
計				70										

8 「家庭総合」年間指導計画例

<目 標>

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- ② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課

題を解決する力を養う。

- ③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

※ ①として「知識及び技能」、②として「思考力、判断力、表現力等」、③として「学びに向かう力、人間性等」の目標とした。

＜評価の観点＞（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとしている。

＜育成を目指す資質・能力＞（例）

観点		資質・能力	資質・能力の説明
知識・技能	1	基礎的読解力	文章や図表を読み、その意味を適切に理解・解釈・分析した後に、改めて記述・表現する力
	2	実践力	理念・理論や技能・スキルを使って、生活や社会で実際にやっていく力
思考・判断・表現	3	論理的思考力	道理や筋道に則って思考を巡らせて結論を導いたり、あるいは、複雑な事柄を分かりやすく説明したりできる能力
	4	批判的思考力	従来の考え方や前提にとらわれず「なぜそうなのか」「本当にそうなのか」を問いかけることで、常識や固定観念に影響されない「真の解」を見つけるため考え抜く力
	5	表現力	文章を書く力や話す力、コミュニケーション能力など、言語を使って表現する力と、制作することにより成果として表す力
	6	課題発見力	よりよい生活や社会の創造を目指し、現状を分析し、課題を明らかにする力
	7	課題解決力	よりよい生活や社会の創造や実現に向け、自らの課題を設定して、解決に取り組む能力
主体的に学習に向かう態度	8	主体的行動力	どんな状況においても「自分の意志」や「判断」で決断し責任を持って行動する態度や力
	9	意思決定能力	自己の意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組む態度や力
	10	協働力	自分の意見を的確に伝えつつ、意見や立場の異なる多様な他者も尊重した上で、目標を共有し、ともに力を合わせて活動する態度や力

【第1年次】

月	単元(項目)	学習項目	学習のねらい	時数	育成を目指す資質・能力									
					知識・技能		思考・判断・表現					主体的態度		
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4	オリエンテーション		・「家庭総合」の目標、内容を理解する。	1	○		○	○		○		○		○
	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・意義と実施方法について理解する。											
	A 人の一	(1) 生涯の生活設計	・人の一生について、生涯発達の視点で											

5	生と家族・家庭及び福祉	ア 次の知識・技能の習得 (ア) 生涯発達と様々な生き方、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解 (イ) 生活の営みに必要な生活資源についての理解と、情報の収集・整理、取舍選択 イ 生涯を見通した自己の生活、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活についての考察と、生活資源を活用した生活設計の工夫	捉え、様々な生き方を理解するとともに、自らの生き方を見つめ、将来の生活に向かい目標を立て、展望をもって生活することの重要性を理解する。 ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、生涯を見通した生活設計することができるようにする。	9	○	○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○
6														
7		(2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 各ライフステージの特徴と課題、青年期の課題と自立、男女平等と相互協力、意思決定の重要性についての理解 (イ) 家族・家庭の機能と家族関係、家庭生活と福祉、社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについての理解 イ 生活の創造に向けた意思決定、家族の一員としての役割、家庭を築くことの重要性についての考察	・人の一生を生涯発達の視点で青年期の課題、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などの学習を通して、青年期の生き方を考え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。 ・男女共同参画社会を推進し、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察できるようにする。その際、自立した生活を営むために、様々な生活課題への意思決定、責任ある行動が重要であることが認識できるようにする。	9	○		○	◎	○	○		○	◎	○
8	C 持続可能な消費生活・環境	(1) 生活における経済の計画 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 家計の構造、生活における経済と社会の関わりについての理解 (イ) 生涯の経済計画とリスク管理の理解と適切な情報の収集・整理 イ 生涯を見通した経済の管理や計画の重要性、社会保障制度との関わりについての考察	・生活と経済のつながりについて、家計の構造や経済全体の仕組みとの関わりを家計管理の重要性について理解する。 ・主体的な資金管理の在り方やリスク管理の考え方を導入した経済計画の重要性について考察し、工夫できるようにする。	8	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
9														
10		(2) 消費行動と意思決定 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性についての理解 (イ) 消費者の権利と責任の自覚、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性や消費者保護の仕組みについての理解 イ 自立した消費者としての意思決定、責任ある消費についての考察と工夫	・近年の消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者として適切な意思決定に基づいて行動できるようにする。	8	○	○	○	◎	○			○	◎	
11														
12		(3) 持続可能なライフスタイルと環境 ア 持続可能な消費、持続可能な社会への参画の意義についての理解 イ 持続可能な社会を目指した主体的行動、安全・安心な消費についての考察、ライフスタイルを工夫	・日常の生活が地球環境問題等と密接に関わっていること、持続可能な社会を目指した消費の在り方について理解する。 ・生活文化と関わらせて考察しながら、持続可能な社会の構築に向けて、自らの消費生活に参画できるようにする。	8	○	○		◎	○	○	○	◎	○	◎
1	D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・学校家庭クラブでの地域連携活動	3		◎			◎			○	○	◎

7		目的に応じた調理に必要な技能 イ 健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造についての考察・工夫	るようにする。 ・日本と世界の食文化に関心を持ち、伝統文化に蓄積された知恵や経験を現代の食生活に生かすことができるようにする。																
	D	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトの立案をする	2		○	○				◎	◎	○	◎					
8	D	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・成果を発表し、次の課題につなげる。	8		○		◎	◎	○	○	◎	○						
9	A	人の一生と家族・家庭及び福祉 (3) 子供との関わりと保育・福祉 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 子供の発達と、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援についての理解、子供に適切に関わるための技能 (イ) 子供を取り巻く環境の変化や子供の福祉についての理解 イ 子供を生み育てることの意義、保育の重要性、や家庭及び地域社会の果たす役割の重要性を考察し、子供の適切な関わり方の工夫	・乳幼児の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、子供が育つ環境と福祉、子育て支援、子供のとの関わり方についての知識・技能を身に付ける。 ・子供を生み育てることの意義、親や家庭及び地域社会の果たす役割の重要性について考察し子供との適切な関わり方を工夫することができる。	15	○	◎	○	○	○	◎	○	○							◎
10																			
11																			
12		(4) 高齢期の生活と福祉 ア 次の知識・技能の習得 (ア) 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての理解、高齢者に適切に関わるための生活支援に関する技能 (イ) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉についての理解 イ 高齢者の自立生活を支えるための家族や地域及び社会の果たす役割の重要性についての考察、高齢者への支援の方法や関わり方の工夫	・高齢者の心身の特徴、社会環境、高齢者と関わる際に重要な尊厳や自立の視点、関わり方などについて理解し、心身の状況に応じた技能を身に付ける。 ・高齢者の生活を支えるための家族、地域社会の役割の重要性について考察できるようにする。	15	○	◎	○	○	○	◎	○	○							◎
1																			
	D	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・学校家庭クラブでの地域連携活動	4		◎		○	○	○	○	◎							◎
2		(5) 共生社会と福祉 ア 次の知識の習得 (ア) 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援についての理解 (イ) 家庭と地域との関わり、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義についての理解 イ 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性についての考察、様々な人々との関わり方の工夫	・家族・家庭の生活課題を主体的に解決し、よりよい生活を創造するために必要な福祉や社会的支援について理解を深めるとともに、主体的に行動する意思決定能力を身に付け、よりよい社会の創造に向け課題を考察することができるようにする。	6	○		○	◎	○	○	○	◎	◎						◎
3																			
計				70															